

新学期を迎えるにあたり、どのようにしたら小学校に入り英語指導の支援者として活動できるのか、また民間の英語指導者として公の小学校の教育現場に入るにあたり、どのようなことに気を付けていけばよいのか改めて考えていきたいと思ひます。

野田まゆみ さん



(株)mpilにて英語講師、小学校英語サポート事業を担当。全国各地の教育委員会依頼による教員研修、カリキュラム作成などに関わる。現在はJ-SHINE指導者の育成や広報活動の事務補佐。

J-SHINE 通信

2013年3月号

■ 英語支援者となるきっかけ作りは自分から！

指導者資格を取得したものの、活動の機会に恵まれないまま数年が過ぎてしまった・・・と半ばあきらめかけていませんか？ チャンスは必ずどこかにあります。国は大きな目標、方針を示しているものの、詳細については各自治体に任せていますので、まずは地域の教育委員会、小学校にアプローチしてみることが第一歩。その際、アプローチする時期が大事です。**次年度のことを決定する12月から1月ごろにかけてがチャンスとなりますが、3月まで募集しているところ、一年を通して登録を受け付けているところもあります。**予算の問題もあり、支援者として活躍されている方の多くは、**無償ボランティアからスタートし、授業での実績をかわれて次年度より有償の支援者として学校に採用されるケースが多いようです。**

また最初は学習活動支援の指導員やボランティア、放課後活動の読み聞かせボランティア、外国人児童の日本語指導のお手伝いとして学校に入り、のちに英語活動の支援者として活躍されるケースもあります。地域差もあり、外国語活動への取り組み方も自治体ごとに様々ですが、英語指導者を公募しているところもありますので、**常にアンテナを張り巡らせ、情報収集を心掛けておくこと**がとても大事です。

子どもたちと向き合い、英語指導を手伝いたい、と言う前向きな思いと、英語を通して子どもたちの教育の一端のお手伝いができればという謙虚な気持ちを忘れずにいたいものです。学校というところは民間人にとってはまだまだハードルの高いところですが、一旦先生たち、子どもたちとの信頼関係を築くことができれば長年続けることができ、別の学校に異動された先生がその異動先の学校からも声がかけてくださるケースもあり、やりがいのあるライフワークに多くの支援者が喜びと誇りを実感されていることと思ひます。

関連サイト「小学校活動状況集計結果」

<http://www.j-shine.org/whatsnew.php?id=26>

■ 小学校に入る支援者として心得

非常勤講師、専任講師、有償・無償ボランティアなどどのような立場であれ、一人の教育者として、担任の先生と共に熱意を持って児童を指導し、**児童の全人教育に携わっている**という重責を肝に銘じておきたいものです。学校では指導の中心は学級担任の先生です。その先生方の児童に対する思いを理解し、学級の希望、目標を理解した上で授業に臨み、児童と接するように心掛けなくてはなりません。JTE(日本人英語指導者)としては、つい英語の言語面を育てることに熱心になりがちですが、態度面、生活面などでも児童を具体的にほめたり、励ましたりする機会を見逃さないようにしたいものです。

もう一つ大事なことは、**学校組織のルールをきちんと把握すること**です。例えば、学校内で使用する全てのものには使用許可が必要です。(コピー機・放送室の使用、絵カードや教材作りのための用紙の使用など。)事務手続きは副校長先生(教頭先生)が担当されていることが多いので、普段からコミュニケーションを大切にしておくことで物事をスムーズに進めることができます。JTEは児童にとっては「先生」ですが、学校の先生方には「外部指導者」ですので、いつも自分の立ち位置を自覚し、行動や言動に留意しなくてはなりません。児童の個人情報流出に気を付ける、校内の諸事情を口外しないなど守秘義務を厳守することは必須です。

J-SHINEそのものの知名度を上げることも重要です。今年度はJ-SHINE設立10周年、記念の年です。全国各地でJ-SHINEトレーナー主催の講座を開催し、教育委員会、学校関係者、地域の保護者の方々にも広く参加を呼びかけ、小学校外国語活動を盛り立ててまいります。より多くの日本人英語指導者が小学校で活躍し、日本の子どもたちの楽しい英語体験の一端を担うことができると願っています。